

研修二日目

● 研修地

長崎県川棚町

● 研修内容

◆ 統合型校務支援システムについて

統合型校務支援システムとは

【システムの内容】

教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）、保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）、学校事務系などの統合した機能を有する情報システムのことである。

また、グループウェア機能もあり、メッセージ、スケジュール管理、備品管理、出退勤管理、アンケートなども簡単にできる。

【導入のメリット】

★各機能間でのデータ引用により、校務における業務負担を軽減することができる。

★事務処理に要する時間

が短縮されることにより、最終的には子どもと向き合う時間の確保・教育の質の向上につながる。（最大のメリット）

★情報の一元管理や共有ができる。

★システム化によりセキュリティ機能が高まり、情報漏えいリスクの低減につながる。

例・出欠管理

・学級担任が出欠を入力すると全校の出欠情報は管理職も閲覧でき、子どもへの対応などが迅速に行える。

・システムで出欠の集計作業を自動で行うため、集計ミスもない。  
・月末に教育委員会への長期欠席者等の報告も改めて情報を入力する必要はない。

・教育委員会では、各校の統計情報等を把握することができると、各学校から紙媒体での提出を求めする必要がなくなり、業務の削減と個人情報の流出・

紛失等の事故の防止にもつながる。

・出欠データは通信簿や指導要録に反映されるため、転記する必要もなくミスも起こらない。

研修視察より

【導入に至るまで】

① 学校現場からシステム導入の要望が上がり、業務改善を目的として導入することにした。

② 町内各学校から担当者を選出して検討委員会を組織した。

③ 委員会では、システムの内容や導入スケジュールなどを検討した。

④ 導入検討から稼働するまで7か月ほどかかった。

⑤ 平成23年度に導入し、現在に至る。

【導入後の効果】

★教員一人当たり年間150時間も業務に要する時間を削減できた。

★通信簿など、管理職への提出期限を遅くすることができ、提出まで子どもの学習面での変化をしっかりと見ることがができる。

★地域や保護者、町とのコミュニケーションツールとしてグループウェアを利用して、町内学校間でのメッセージや保護者へのアンケート、緊急連絡などを行っている。

★セキュリティに関しては、個人のパソコンには残らないようにデータをサーバーに保存するよう設定し、サーバー上でログイン管理を行うなど、情報漏えい対策も確実に実行しているため、問題は発生していない。

★導入から10年が経過したが、現在は全教職員が利用し、なくてはならないシステムとなっている。システムを導入していない他市町への異動が心配だ、という教職員も多い。

今後に向けて

昨今、教職員の多忙化は問題になっており、学校の働き方改革、教職員の長時間労働の是正は本町の喫緊の課題の一つである。

研修先での大きな効果、成果の実証があるだけに、今後本町においてもシステム導入に向けて前向きに検討すべき事業と考える。

ただ、導入時の初期費用やメンテナンスコスト、セキュリティシステムの同時導入などの課題もある。まずは、先生方を含めた検討委員会を設置し、実際に使用する現場の教職員からの声を聞きながら、統合型校務支援システム導入に向け推進していくべきだと感じた。教職員のモチベーションが向上すること、子どもたちによりよい環境を与えることができ、さらなる教育環境の充実につながることを期待する。



授業風景